

事務連絡
令和3年2月9日

国立高等専門学校機構 御中

公益財団法人原子力安全研究協会

国際原子力人材育成イニシアティブ事業 FS審査委員会評価結果について

貴機関において実施された「国際原子力人材育成イニシアティブ事業」に係る事後FS審査委員会評価結果を、以下のとおり通知いたします。

課題名	ネットワーク形成を通じた高専における原子力人材育成の高度化
実施機関	国立高等専門学校機構
代表者	井上 光揮

【評価結果】

A	継続は妥当である
---	----------

※)A ; 継続は妥当である。

B ; 一部の内容について継続は妥当である。または、改善の上での継続が妥当である。

C ; 継続すべきでない。

【FS審査委員会所見】

- 中堅技術者の養成のため、あるいは原子力系大学や大学院への進学者を確保するために、高専における原子力教育の意義は大きいものと判断する。特に、放射線に対する理解や原子力産業に対する理解は、そのあとの進路を考える上でも大切であると考えられる。高専内において原子力分野の教育が広がってきていることを高く評価する。
- 専門教育カリキュラム、講義、実習の構築、高度化だけでなく、電力会社など産業界との連携を具体的に構築したことは現場教育という点でも高く評価できる。
- 関係機関だけでなく、中学生、中学教員への教育へ裾野を広げた活動は評価できる。
- 大学卒のみならず、高専卒の学生は産業界にとって即戦力として重要視していることから、今後もカリキュラム内容の充実、継続的な実施などが望まれる。
- 実施に当たっては、大学教育との接続や相互乗り入れを念頭に置きながら、実施することが望ましい。
- 我が国全体として原子力人材育成の基盤の底上げを図っていくことが重要であり、コンソーシアム内の各機関の連絡・調整を十分に行い、PD・POの指導下で事業を進めていくこと。

以上